

オペレーションルーム送信資料			
件名	中国情勢 (学生デモ関係)	送信日時	6月3日(土) 22時00分
		送信枚数	全 6 枚
		送信課	アジア局(部)中国課(室)
連絡事項	3日夜現在、本件関連主要情報		

送信先 (○印)	短縮番号
ファックス設置全幹部	
総理秘書官	01
<input type="radio"/> 官房長官秘書官	02
<input type="radio"/> 官房副長官秘書官	03
内閣外政審議室長	04
宮本大臣秘書官	05
<input type="radio"/> 事務次官	06
<input type="radio"/> 次官秘書官	07
<input type="radio"/> 栗山外務審議官	08
<input type="radio"/> 国広外務審議官	09
国際経済担当大使	10
<input type="radio"/> 官房長	11
総括審議官	12
<input type="radio"/> 総務課長	13

<input type="radio"/> 外務報道官	14
<input type="radio"/> 報道課長	15
領事移住部長	16
<input type="radio"/> アジア局長	17
北米局長	18
中南米局長	19
欧亜局長	20
中近東アフリカ局長	21
経済局長	
経済協力局長	23
条約局長	24
国連局長	25
科学技術審議官	26
<input type="radio"/> 情報調査局長	27
<input type="radio"/> 情報課長	28

○ 3日午後の状況 (別添地図参照)

1. 3日午後、北京市内数ヶ所で、武装警察と学生・市民が対じし、もみ合い、しろう突が生じ、一部では負しう者も出た模様のところ、館員が各所で視察した概要次のとおり。

(1) 新華門では14:30ころ武装警察(約100名程度)がさいるいガスを用いて、かねてよりすわり込みを行つていた学生等を撤退させようとしたが、学生・市民側におしもどされ、武装警察は西方へ退却した。(さいるいガスを用いた場面には館員は居合わせながつたが、邦人プレスが現場を目撃しており、館員(南)が現場でさいるいガスのカラを確認した)

(2) 人民大会堂西側道路では、本日午後、南方から北に向かつてきたと思われる2,000-3,000人の軍(ヘルメット着用、武器不所持)を市民2,000-3,000人がバス2台を使つてそ止して対じしていたが、17:30の時点で、市民が軍を圧倒し「コ」の字型の防衛線を突破した。(当館(南)が視認)

その間のもみ合いで若干の負しう者がでた模様であり、ちを流した学生を救急車が運んでいるところが見られた。

(3) 西単では、本日未明にテン安門方向へ向かつてきて学生・市民にそ止され、その際逃げ遅れたバス2台(各々12-13人の兵が乗っている)が17:30現在においても、なお市民に取り囲まれている。

2. (1) 以上の結果、18:00過ぎには新華門付近には、軍及び武装警察はいなくなり、西単にはバスによりバリケードがきづかれ、一般の交通はしや断され、西単以東は一種の解放区化している。また、テン安門広場付近にも上記1. (2)の軍がまだ一部残存している模様。

(2) また、館員の目撃したところでは、北京市順義路リド・ホテル付近には兵を満載したトラック数十台が市民と対じしている。

さらに、19:00過ぎには、二かん路を南から北上した軍のトラック約50台が長安がいに入つたが、これを数千名の市民がそ止する形となり、こう着状態となつている。

その後

3日早朝往電以後の状況につき当館員が視認した状況次のとおり。

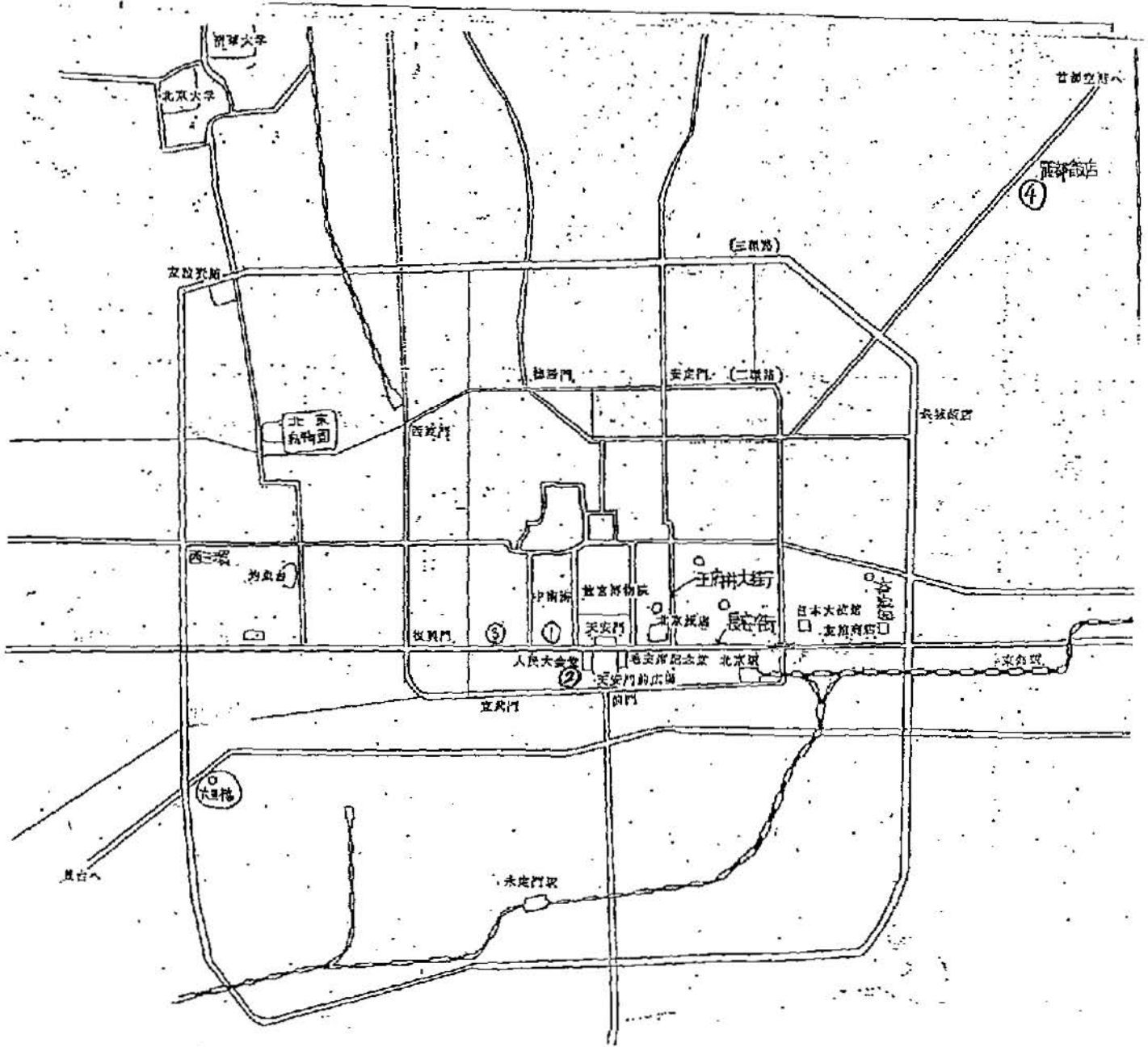
19:00ころ人民解放軍が長安がいをテン安門方向に向かおうとし、多数の学生・市民にそ止され、現場は続々市民がつめかけ、20:00現在、大ぐん衆の中、完全なこう着状態となつている。

部隊は、二かん路南方からテン安門に進出したとみられ、建國門大がいにさしかかるインターチェンジ付近において学生・市民にそ止され、立ち往生させられた。武力の使用等はなく、市民との間にしよう突はまだ発生していない。部隊の規模は通信車2台を含む大型トラック約50両であり、各車両は兵士を満載(各車両20-30名)し、各兵士は、自動小じゆうで武装して、ヘルメットをそう着し、弾そうを各自6ヶ以上所持している。市民は各車両を取り囲み兵士を説得しているが大部分の兵士は押しだまつたままでやや不安気に見える。

(当館注:上記は一正面の状況であるが、西側、南側、北側からの進出有無状況については調査中。リド・

ホテル近べんでやはり市民と対峙していることは早朝往電のとおり)

交わりなし



- ① 新華內
- ② 人民大會堂西側道路
- ③ 西單
- ④ リド・ホテル
- ⑤ 二環路

○ 李鵬発言(3日)

1. 3日よる7時の中央テレビのニュースは、トップで国際的な「共通の未来」会議の理事長の招待によるテレビ演説におけるリ・ホウ総理の発言を放えいた。(リ・ホウ発言がいつ行われたかについては、5日から始まる「世界かん境の日」を前にしてとなっており、極く最近のものと思われる。)
2. 右発言は、5日から「世界かん境の日」が始まることに関連し、将来の地きゆうかん境の悪化の進行防止のための国際的な協力について述べたものであるが、リ・ホウが終始固い表情で、19日よるの「動乱」ちん圧講話の如く、きつい口調で右発言を行っていたことが印象的であつた。
なお、右発言内容は、3日付新華社電でも報じられている。

○ 秦基偉[国防部長]の動向(3日)

3日よる当地中央TVニュースは、かねてより失きやく説の飛び交つていたシン・キイ国防部長の動せいにつき以下のとおり報じた。

(シンについては30日の新華社電が、20日の告別式にはなわを送つた旨報じたことはあるが、かい嚴令發布以後すがたを表わしたのは初めて)

1. 3日午前、中共中央政治局委員、國務委員兼国防部長のシン・キイ上將、副總參謀長ジョ・シン上將は、北京こう外のかい嚴部隊の指き員及び戦士を見まつた。シン・キイは部隊に対し、トウ・ショウヘイ軍事委員会主席及びヨウ・ショウコン副主席からのあいさつを伝えた。彼は、部隊の軍きをよく守り、闘志がこうようし、軍事訓練がよくなされ、政治教育がしつかりなされ、ちつ序だつて生活しているのを見て、非常によろこんだ。

彼は、「きみらの行動は、北京市民の理解、支持、そして信頼を得ている。われわれの部隊は誠心誠意人民のためにつくすものであり、党の指示を受けるものであり、高度の政治意識をもつものであり、また、この訓練にたえうるものである」と述べた。

2. 5月31日、軍事委員会副秘書長のコウ・ガクチ、リュウ・カセイも、軍事委員会主席トウ・ショウヘイ、副主席ヨウ・ショウコンに代わつてかい嚴部隊を見まつた。

↑ (ア中注：筆頭副主席の趙紫陽の名は打い)